

令和6・7年度 八尾市産業振興会議 提言書 概要

今期は、「大阪・関西万博後における八尾市の産業の好循環」をテーマに、万博を契機とした持続的な産業のあり方について、議論と実証を重ねてきました。

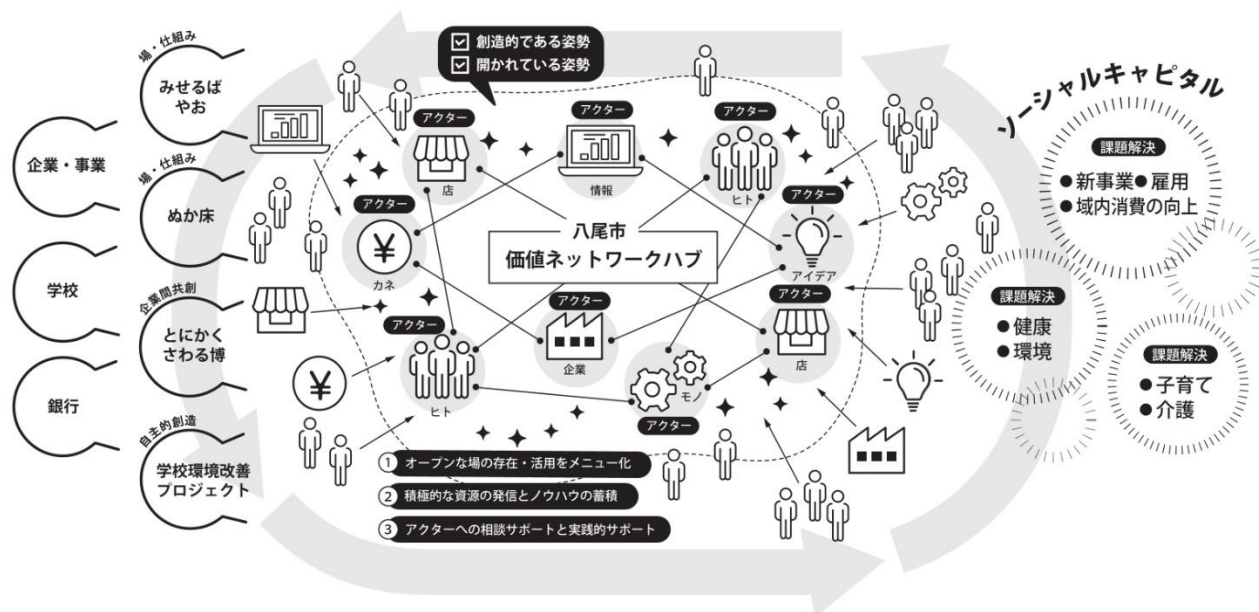
「やお糠床モデル」を基軸に、多様な主体の「はたらき」をつなぎ、価値創造・共創へと発展させる方策を検討してきました。その結果を踏まえ、本提言では、万博のソフト・レガシーである「オープンであること」に着目し、「オープンにする」「資源を引（魅）きつける」「共創する」の三つを柱として、整理しております。

万博のソフトレガシーを活かした価値創造/共創

1 オープンにする 信頼関係を築く

2 さまざまな資源を引（魅）きつける 資源への着目を発信

3 共創する 利己と利他の融合と地域との共創



ものづくり・商業・教育・文化を積極的に結びつけ、地域の人材と資源が自律的に活用される横断的なエコシステムの構築

【 提 言 】

1 「オープンにする」ための支援

企業・学校・市民などが安心して関われるオープンな場を整理・可視化し、目的に応じて選べるメニューとして提供することで、新たな参加や挑戦を促す。

2 「さまざまな資源を引（魅）きつける」ための施策と支援

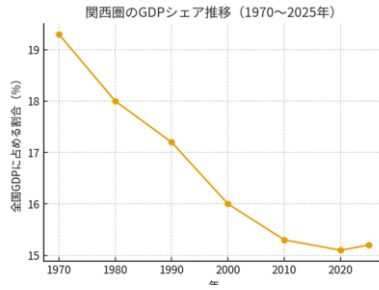
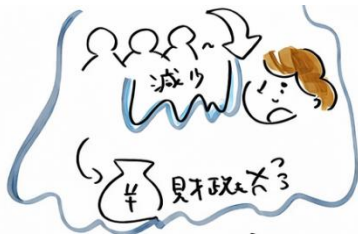
人材・技術・活動などの地域資源を積極的に発信するとともに、取組や知見をノウハウとして蓄積・共有し、次の連携や活用につなげる。

3 「共創する」ための施策と支援

多様なアクターの相談に応じながら、必要な人材や資源につなぐ伴走型のサポートを行うことで、具体的な実践や共創を後押しし、地域課題の解決と価値創造につなげる。

-提言の背景-

【現状分析と将来動向】



八尾市の人口は、平成2年度をピークに減少を続け、2050年には20万までになる見込み。少子高齢化による、財政運営はますます厳しい。

前回の大阪万博後は、関西圏のGDPの占める割合は減少傾向。



企業の成長や成長意欲は、ネットワーク、つながりから育まれる。



2025大阪・関西万博のソフトレガシーを八尾市の産業にどうつなげるか。

【めざしたい未来】

“いきいきしたまち”にしたい！



【着目する2つの理論】

①連鎖的なネットワークの結果として実践が生まれる。

②受け手の課題・期待と提供者の価値提案が結びつく。価値創造/共創。
=サービスの交換の連鎖。

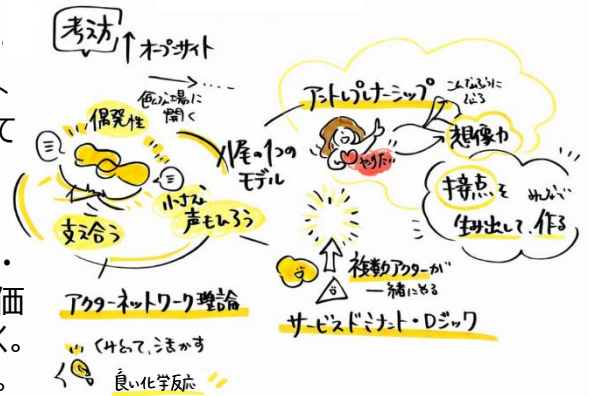
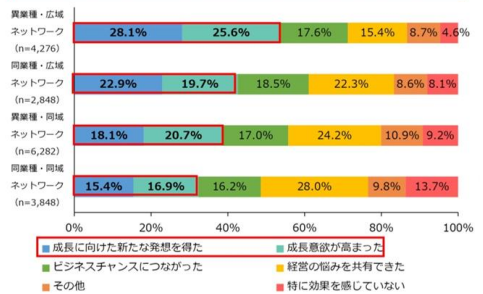
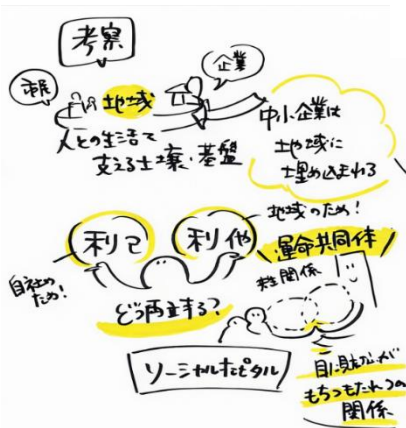
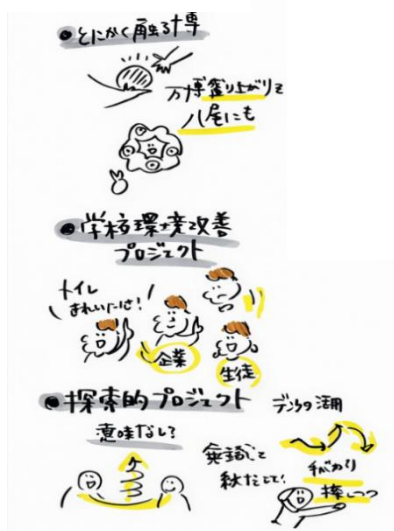


図1 経営者ネットワークで得られた効果



【3つの実証実験】



【考察】

つながりを育むことは、地域産業、さらには地域経済全体の持続可能性を支える営みとなる。

地域のアクターとしての果たす役割は、地域課題解決に寄与する。

市全体としての付加価値の創出と分配の好循環

